



令和7年 3月14日(金)

多摩市立連光寺小学校特別支援教室かがやき
学級通信 NO. 19

三月、学校の日々は変化への加速度を増していきます。それぞれの学年が一年間の学習のまとめに向かい、六年生は卒業式という小学校生活最後のまとめへと進みます。先日の保護者会でも話題に上がりましたが、一年という「線」で子供たちの成長を見ると、各学年で本当に様々な変化があったかと思います。ここでは簡単に、各学年の成長、変化についてレポートをします。

一年生

小集団指導では少しずつ「集団」としてのルールや枠組みが意識出来た一年生。バラバラだった意識が、一緒に楽しむ・喜ぶ・相手とケンカになる・謝る・仲直りする等の、相手に意識を向けた行動に成長していきました。今後は、お互いの個人的な事情にも意識が向いていきそうです。

二年生

四月、お互いに周囲の刺激を受け合う子や、我関せずで好き好きに過ごそうとする子等、ピリッとした緊張感と「俺が俺が」で、なかなかトークや共有も難しかった日々がありました。しかし、今は互いがどんなタイプなのか、どうやら自分とは事情が違うということ、自分と同じ所もあるということ等に気が付きながらの関係性が深まっています。



学びのまとめと
次のスタートに向けて

四年生

自分の課題に向き合ったり、振り返ったりする時間が増えました。二・三年生の時、自分はどんな課題を抱えていたのかを振り返り、今の自分の姿と比べ、「～ができるようになってきた」と、子供たちが実感できるようになっています。また、友達の状況についても自己分析するなど、視点を大きくもつ力も、ついてきたのかと思います。

三年生

かがやきの授業とクラスの授業の時間割りが重なっているときには、「どうすればいいですか?」と確認にくるようになりました。演習の時間には、ゲームを相談して決めたり、ちょっとしたトラブルが発生した時には教師が介入しつつも、自分たちで「こうした方がよかった」と振り返りができたりする集団に成長しました。

五年生

小集団では、それぞれの「事例(ちょっとした困りごと)」について意見を出し合う集団に成長しました。自分の調子や状態について、少しずつ言葉で伝えたり、他者の困りごとについて自分ならどうするかを考えたり、またアドバイスをし合ったりしています。物事を客観的に伝えることが増えてきたと同時に、周囲の視線や自分の考えも通したいという自我が出てくるようになりました。次の最高学年に向け、また自分と向き合う時間を深めていきます。

六年生

「落ち着いてきたよね」が第一の感想でしょうか。授業時間にすっと入室してきて、一・二声で着席。「今日何やるの?」とクールに聞いてくる子もいます。世界観が少しずつ確立されてきて、自分の性格や得意や苦手、現在の学習課題への取り組みについて、自分の言葉で話す機会が増えました。少し込み入った教師の話も座って聞くことができるメンバーに成長しました。中学校に向けてカウントダウンの日々です。次のステップに向けてワクワクドキドキです。